

科目区分	専門分野Ⅱ	科目名	老年看護援助論Ⅱ (脳・神経)	対象学生	第2学年
		単位数(時間数)	1単位(30H)	学 期	第1学期
担当講師	看護師、非常勤講師				
科目目標	1. 加齢に伴う機能障害をふまえ、認知症患者の看護について理解する。 2. 脳・神経系の健康障害をもつ対象への、看護が展開できるため				
授業概要	<p>第1回～第5回 認知症患者の看護:10H 担当:非常勤講師</p> <p>第1回 <b>加齢に伴う変化への援助</b> 1) 精神活動に関する徴候と援助(うつ・せん妄・認知症) 2) 感覚機能に関する徴候と援助(視覚・聴覚障害のアセスメントと援助)</p> <p>第2回 <b>加齢に伴う変化への援助</b> 1) 循環に関する徴候と援助 (1) 脱水 (2) 褥瘡の発生机序 (3) 褥瘡スケールのアセスメント(ブレーデンスケール)</p> <p>第3回 <b>加齢による認知機能障害のある患者の看護</b> 1) 加齢による認知症の病態と要因(アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症) 2) 認知症の高齢者に対するコミュニケーション方法 3) 行動・心理症状と生活への影響 4) 認知症高齢者の権利擁護のための社会的支援・制度</p> <p>第4回 <b>加齢による認知機能障害のある患者の看護</b> 5) 認知症予防 6) 認知症の治療と援助 7) 認知症の予防治療、療法的アプローチ 8) 認知症高齢者の家族への支援とサポートシステム</p> <p>第5回 <b>加齢に伴う変化への援助</b> (演習) 1) 褥瘡の予防援助(除圧: 予防具の使用、背抜き)</p> <p>第6回～第12回 脳・神経機能障害のある患者の看護:14H 担当:看護師</p> <p>第6回 <b>症状・障害のある患者の看護</b> 1) 意識障害 2) 高次脳機能障害(失語、失行、失認) 3) けいれん・頭蓋内圧亢進症状</p> <p>第7回 <b>症状・障害のある患者の看護</b> 1) 摂食・嚥下障害のある患者への援助 (1) 加齢による摂食・嚥下障害の病態と要因 (2) 摂食・嚥下障害のアセスメント (3) 摂食・嚥下障害を有する高齢者の看護 (4) 誤嚥性肺炎の予防と援助 (5) 経口摂取不可能な対象</p> <p>第8回 <b>検査・処置を受ける患者の看護</b> 1) 脳波検査 2) 髄液検査 3) 脳血管造影 <b>治療を受ける患者への看護</b> 1) 開頭術 2) 穿頭術 3) 脳室ドレナージ 4) 脳室-腹腔&lt;V-P&gt;シャント術 5) 低体温療法</p> <p>第9回 <b>治療を受ける患者への看護</b> 1) 血管バイパス術 2) 血管内治療</p> <p>第10回 <b>病期や機能障害に応じた看護</b> 1) 脳血管障害(大脳、小脳) 2) 脳腫瘍(大脳、小脳)</p> <p>第11回 <b>病期や機能障害に応じた看護</b> 1) 感染症(脳炎、髄膜炎) 2) 頭部外傷 3) グランパレー症候群</p> <p>第12回 <b>摂食・嚥下障害のある患者への援助</b> (演習) 1) 誤嚥性肺炎の予防と援助、経口摂取不可能な対象(経管栄養含む)</p> <p>第13～第15回 神経筋難病患者の看護:6H 担当:非常勤講師</p> <p>第13回 <b>筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者の看護</b> (GW) 1) コミュニケーションの援助(透明文字盤によるコミュニケーションの演習) 2) 日常生活の援助 3) 日常生活援助に必要な看護技術(体位固定、ストレッチャー移動の演習)</p> <p>第14回 <b>パーキンソン病患者の看護</b> 1) 加齢によるパーキンソン症候群の病態と要因 2) 4大症状 3) ホーン・ヤールの重症度分類 4) 服薬管理 5) 日内変動や経過に合わせた生活援助 6) 転倒・外傷の予防 <b>重症筋無力症患者の看護</b> 1) 病態と要因 2) 症状(日内変動) 3) 看護 <b>社会的支援の獲得への看護</b></p> <p>第15回 <b>終了試験</b></p>				
看護師国家試験出題基準	<p>認知症(加齢による病態と要因、環境と行動・心理症状、認知機能の評価、予防治療・療法的アプローチ、コミュニケーション方法 療養環境の調整、急性期一般病床での援助、家族への支援とサポートシステム)、せん妄(加齢による病態と要因、症状と生活への 影響のアセスメント、予防、治療の援助)、うつ病(加齢による病態と要因、症状と生活への影響のアセスメント、予防、治療の援助) 摂食・嚥下障害(加齢による病態と要因、アセスメント、予防と援助) 廃用症候群(加齢による病態と要因、アセスメント、予防と援助)、脱水症(加齢による病態と要因、アセスメント、予防と援助) 生命維持活動調節機能の障害、運動・感覚機能障害、高次脳機能障害、生命・生活への影響、脳波検査、髄液検査、脳血管造影</p>				

科目区分	専門分野Ⅱ	科目名	老年看護援助論Ⅱ (脳・神経)	対象学生	第2学年
		単位数(時間数)	1単位(30H)	学 期	第1学期
担当講師	看護師、非常勤講師				
<b>看護師国家試験出題基準</b>					
開頭術、尖頭術、血管バイパス術、血管内治療、脳室ドレナージ術、脳室—腹腔<VP>シャント術、低体温療法、脳血管障害(大脳、小脳)、脳腫瘍(大脳、小脳)、感染症(脳炎、髄膜炎)、頭部外傷					
<b>授業の進め方</b>					
臨床で遭遇する頻度が高く基本知識として必要な内容を選択して教授する。(講義・演習) 症状・障害のある患者の看護では、演習を含めて技術の習得ができるようにする。					
<b>履修のポイント・留意事項</b>					
既習内容である「老年看護学概論」の加齢に伴う変化を想起し学習する。 形態と機能、疾病・治療論、病態診断学等の学習内容を想起する。 この科目では、老年看護学実習へつながる老年期の対象を理解するための基礎となる学習をする。					
<b>テキスト</b>					
系統看護学講座「老年看護学」 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[7] 脳・神経疾患患者の看護 医学書院 参考図書:新ALSケアブック第2版 筋委縮性側索硬化症療養の手引き 日本ALS協会編*図書室蔵書有					
<b>評価方法・配点</b>					
終了試験(第1回～第5回、第13回～第14回 終了試験100点(第1回～第5回55%、第13回～第14回45%) 第6回～第12回 終了試験100点)、課題レポート、学内演習の参加状況で総合評価する。					